

## 大屋根の瓦吹き替え工事

檀信徒の皆さまには日頃全久院護持のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて全久院の本堂は昭和40年の改修により何とか今日まで維持管理することが出来ましたが、写真にもありますように、大屋根の瓦の傷みがひどくなり大変危険な状態になってまいりました。またその改修の際、傷んだ瓦のみを取り替えたため、瓦がずれてしまったり、もろくなって粉々にかけ始めています。特に大屋根の東側（裏側）には苔も生えており、なるべく早い葺き替えが必要となっています。



また、葬儀や法事の際使っていただく勝手と本堂裏のトイレも古くなり使いにくくなっています。勝手は床が抜けそうで、ガス器具なども古くなっています。トイレは床板が腐りかけ、和式で、数が少なく皆様にご不便をかけています。

そこで改修のための作業に入りました。

### 1、工事費の見積もり

平成20年11月の総代会にて3社より見積もりを取ることに決定し、12月中に見積もりを提出いただき、内容を検討いたしました。平成21年3月の総代会にて山田工務店に工事をお願いすることに決定いたしました。見積もりの金額は本堂大屋根瓦葺き替え37,800,000円、本堂トイレ6,300,000、庫裡台所5,400,000、合計49,500,000となりました。



### 2、工事期間

この事業は平成21年度に寄付を開始し、22年度に工事を着工し、完成を予定しています。工事の詳しい期日は、経済等が流動的なため最善の期間を工事に当てることのできるよう検討しています。また、工事期間中は足場や工事車両などで皆様にはご迷惑をおかけするかとありますが、ご寛容の程よろしくお願いいたします。

### 3、寄付金について

檀信徒の皆様には日本や世界経済が悪化する中大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんが、下記の要領でご寄付をお願い致したく存じます。660軒の檀家様がご寄付くださったとして計算いたしました。寄付につきましては皆様のご都合を優先いたします。どんなことでも結構ですのでご相談ください。なにとぞご協力賜りますようお願い申し上げます。

一口 25,000円 (皆様に平均三口をお願いいたしたいと存じます)

三口 75,000円 × 660軒 = 4950万円

不足分が生じた場合は全久院護持会の積立金をこれに当てさせていただく予定です。

#### 4、寄付の申込み期間

申込みは 別紙の申込み用紙を郵送かファックスで全久院へお送りください。もう一部作り本人控えとしてください。  
送り先住所 〒390-0815 松本市深志3-7-50  
ファックス 0263-34-4300  
申込み締切りは 平成21年12月末日

#### 5、寄付の払込みについて

払込み期間 自 平成21年9月1日  
至 平成22年12月31日 (檀家様のご希望、ご相談ください)  
払込み方法 1、全額 一括払い  
2、分割 複数の払込み回数可能 (檀家様のご希望、ご相談ください)  
3、払込み ・現金 寺院へ持参か、現金書留にて  
・払い込み ゆうちょ銀行の払込み口座へ払込み用紙にて  
(なるべく払込みにてお願いいたします)

以上ご理解のほどよろしくお願いいたします。寄付に関しましては別紙「本堂大屋根瓦葺き替え、檀信徒用台所・トイレ修理に関する寄付のお願い」をお配りしますので、その様式にてお申込みください。よろしくお願いいたします。

#### お盆参いのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧ください。本山修行中の長男俊浩も棚経に回ります。昨年お参りにあがった家の方から、「前年とはすっかり変わりましたね。堂々とおまいりしていただきました。声が良く、初々しい坊様ですね。住職は来なくてもいいですよ(?)」などお褒めの言葉を頂戴し、本人もだいぶ励ましていただいたようです。本年は住職と回る軒数が同数になります。このコースを覚えてもらい、2~3年したら回るコースを変え、住職と俊浩が全部の檀家様のお参りをします。今年の予定は下記の表のとおりです。従来の周り順と変更があります。よろしくお願いいたします。

8月	住職の回る範囲	俊浩
9日	新盆のお宅	
10日	安曇、明科、麻績など超遠方	
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、惣社、横田、岡田、沢村など市外北部	笹賀、石芝、南松本、新村、荒井、沢村、蟻ヶ崎、城山
13日	源地、県、清水、女鳥羽、など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、
14日	横田、浅間、北深志、蟻ヶ崎、丸の内、など市内北西部	南新町、井川城、鎌田、本庄、天神、宮村、中町、本町
15日	城西、島内、白板、留守だったお宅、	渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	

#### お盆の作業と懇親会にどうぞ

本年も、お盆が始まるにあたり、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思えます。昨年も15人の方に参加していただくことができました。写真は、汗をかいた後の懇親会

の様です。住職も堅苦しい着物を作業着に替え、一緒に作業をし、一緒に汗をかき、一緒に美味しい一杯を頂きたいと思えます。

**7月25日(土) 15時より掃除(お墓・窓拭き・山門など) 17時より夕食を兼ねた懇親会 全久院の庭に集合** 作業のできる服装でお越しください。厳粛な中でのふれあいではなく、汗をかきながらの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の様子もわかっていただけるかと思えます。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。



### 境内散歩 - 韋駄天さま -



全久院の玄関に入り、  
畳の間に一步は行って  
いただくと、目の前のかもいに  
棚が作られておりそこに安置  
されているのが韋駄天様です。韋  
駄天はサンスクリット語で「ス  
カンダ」、私建陀(しけんた)・塞建陀(そくけんた)と音写されて  
います。インドでは聖人の遺骨を  
供養すると福德が得られると信  
じられており、お釈迦様の遺骨  
(佛舍利)についても多くの弟子  
が欲しがりました。佛舍利を均  
等に分配したところ、足疾鬼(そ  
くしっき)という足の速い鬼神が  
佛舍利を奪い取り、足に任せて  
逃げ去った。その後を韋駄天が  
追いかけて一瞬のうちに須弥山  
(しゅみせん・仏の世界で一番高  
く、聖なる山といわれ、インド  
のヒマラヤ山脈を宗教的にあら  
わしたとされています)の頂上  
の三十三天まで駆け上がったと  
されています。須弥山の高さは  
5億12百万キロといわれています  
からスペースシャトルも敵いま  
せん。足疾鬼に追いついた

韋駄天は無事に佛舍利を奪い返したのです。この説話から足の速いことを「韋駄天走り」と言うようになったとのこと。因みにこの頂上が「有頂天」。アジアのものの考え方を通して、いろんなものが見えてきませんか？

韋駄天はヒンズーの神シヴァ神の妻パールヴァティーとの子どものガネーシャと同体とされています。ガネーシャは象面人身で、諸の障害を除き、夫婦和合や子宝を授かる神として信仰されています。寺院の伽藍を守る守護神となり、四天王の内の増長天の八大将軍の一人とされています。形は甲冑をつけて、合掌した腕の中に宝剣を携えています。禅宗の寺では庫裏に、特に食堂の守り神として安置されています。

### 花祭り

お花祭りは松本仏教和合会主催で毎年5月第三日曜日に開催されます。当日のお祭りを迎えるにあたり、4月1日から1月間、約1000軒の托鉢をします。色々な宗派の寺院の檀家さんの仏壇の前でお参りをします。お茶をいただいたり、昼食をいただいたりします。約25日間の托鉢の行程の中で昼食をいただきますが、全久院では5



軒の檀家さまからご協力をいただいております。和合会は40ヶ寺の集まりですから、全久院の檀家さまがどれほど熱心に協力してくださっているか押して知るべしです。

お祭りの一番目立つ役を果たす以上に、根元で支える役を確実に果たす皆様の気持ちが一番大切と感じています。

## 護寺会より

### ほのぼの文化祭

3月15日(日)1時より松本市を中心にした第3教区の護持会主催によりほのぼの文化祭を全久院にて開催しました。他の寺の檀家様どうしの繋がりを深めようという趣旨で、檀家様の中でいろいろの才能を持った方に集まっていたいただき、皆でひと時を過ごしました。展示部門では仏画や墨蹟、石細工や皮細工、風景写真など。ステージでは腹話術、マジック、落語、詩吟、歌などの多彩な才能を発揮してもらいました。その他に座禅や身の上相談コーナーも設けま



した。お寺という場所で気軽に人々が集い、安らぎの中で、人の繋がりを深くすることができ、350人の来場された方々はすがすがしい顔をされて帰途につかれました。

全久院も檀家の和泉屋志ん治さんの落語、観音講の皆さんの唱歌合唱、大黒のソプラノ、住職の茶席などで参加しました。法事などで檀家の皆様からお寺の果たす役割などいろいろな意見を聞く中で、やはりお寺に気軽に集まり、心が安らぐ空間になって欲し



いという要望が一番多く聞かれます。このほのぼの文化祭もそんなお寺の役割の一つと思います。

## 仏教ミニ知識

### 盆棚の飾り方

#### 1、棚を作る場合

上の段に本尊様、(本尊様は仏壇に入れてお盆中は閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください) お位牌、塔婆をまつる。2段目に供物やお膳、水やお茶。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。棚の数が多いお宅は上の写真のように各棚に分けてお供えください。



#### 2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおりまつる。手前に経机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯笼や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して吊るか、棚に広げて置いてください。



初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。

### 地獄と極楽

仏教でも宗派によって色々な教えがありますが、禅宗ではどんな地獄極楽の捉え方があるか紹介したいと思います。

ある人が地獄見物に行きました。ちょうど昼時。地獄だから何も食べ物がないと思ったらその反対。食卓には山海の珍味が並んでいた。しかし食卓の周りの人々はやせ衰えて、骨と皮ばかりです。不思議に思えばよく見ると皆が持っている箸は1メートル。そのため自分でつまんだ食物は自分の口に入れることができません。今度は極楽に行きました。食卓もご馳走も箸も地獄と同じです。にも拘らず極楽の住人は皆ふくよかで、豊かな笑みを浮かべています。どうしているのかと見回してみると、箸でつまんだ食物をお互いに向き合った人の口に入れます。そうするには箸は手ごろな長さだったのです。自分だけの口に入れるには不向きでも、お互いの口に入れるには最適な箸だったのです。

同じ条件で同じ機構の社会でも、そこに住む人の心働きによっては地獄にもなるし極楽にもなります。「自分が」「自分だけが」といった執着心に引きずり回されているのを知らず、自分だけが最高の生き方をしようとすると、逆に自分の生を阻害し、苦しめます。与える心、施す心、お互いを生かし合う心を持つひとの集まりが極楽なのです。今生きているこの世界がそのまま、自分の心持しだいで地獄にも極楽にもなります。地獄や極楽は自分の心以外のところにあるのではないのです。自分の心の中のことです。これが禅宗にとっての地獄極楽です。

### 茶道コーナー

#### 初釜

全久院では毎年第二日曜日に一年の稽古始として初釜を行います。父の代より始まった全久院茶道ですが、父が育てた弟子や懇意にしていた茶道の仲間が50人ほど集まります。まず皆さんに濃茶と薄茶を差し上げます。この写真は濃茶を点しているところです。正月気分を最高に演出できるように、金と銀で茶碗の内側を色付けした大小二つの茶碗を重ねて持ち出します。晴れやかですが、少々複雑な重ね茶碗の点前をしてお客様に差し上げます。水屋には当番をお願いした社中の方が控えて、菓子を出したり、点て出しでお茶を出したり気配りをしてもらえるので、一服の茶を皆でゆったりと味わうことができます。茶道も一人では何にもできません。皆の気配りの集大成が一席のお茶となります。



茶の後は茶懐石をいただきながらいっぱいお酒を頂戴します。ほとんどが女性ですので私はお銚子を持って回っても返杯されるだけです。全員から返杯を受けるころには呂律もそろそろおかしくなります。そのころ茶碗や茶道具が当たるくじを引いてもらい、にぎやかに閉幕。楽しみな茶会ですが、どんな道具を使うか、どんな趣向にするかなど準備が大変で、また道具を拭き、乾かしてしまうことも辛い仕事です。表面の優雅さの裏には目に見えない辛さの積み重ねがあります。それを解消するために、お酒が飲める何人かに残ってもらって、もう一杯。全員からの返杯に「酔うな！」と脳みそに指令を出し続けた緊張をほぐします。

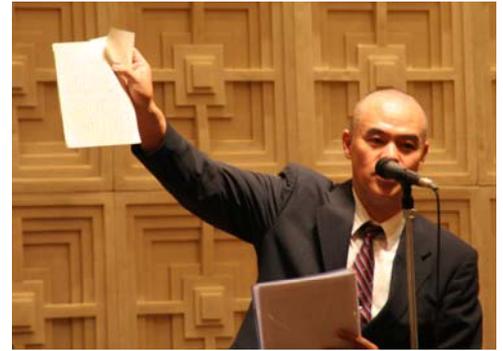
茶の後は茶懐石をいただきながらいっぱいお酒を頂戴します。ほとんどが女性ですので私はお銚子を持って回っても返杯されるだけです。全員から返杯を受けるころには呂律もそろそろおかしくなります。そのころ茶碗や茶道具が当たるくじを引いてもらい、にぎやかに閉幕。楽しみな茶会ですが、どんな道具を使うか、どんな趣向にするかなど準備が大変で、また道具を拭き、乾かしてしまうことも辛い仕事です。表面の優雅さの裏には目に見えない辛さの積み重ねがあります。それを解消するために、お酒が飲める何人かに残ってもらって、もう一杯。全員からの返杯に「酔うな！」と脳みそに指令を出し続けた緊張をほぐします。

今年皆さんにお配りした記念の扇子に、白い侘び助（椿）の絵を描き「清浄無垢」と書きまし

た。父が亡くなり一人でお寺を切り盛りするために、もう一度原点に戻って、清浄無垢な心で何をどうすべきか見直してゆこうという気持ちを表しました。

### 表千家同門会長野県支部創立50周年茶会

表千家同門会長野県支部が創立されて今年50周年を迎え6月20・21日に記念祝賀会と茶会を長野市のホテル国際21と、善光寺にて催しました。同会は父が設立に際し中心的な役割を果たし、当時の家元即中齋宗匠とも大変親しくお付き合いさせていただきました。現在は私が父の事務長を引き継ぎましたので、今回の茶会の事務局を勤めました。20日の祝賀会は220人の参加者、而妙齋家元宗匠、県知事、長野市長、善光寺事務総長のご臨席をいただき、また、檀家様の佐藤テレビ松本社長様に副支部長をお勤めいただいておりますので乾杯の音頭をとっていただきました。右の写真は父が書き留めた支部の50周年の歴史を来場の皆さんに紹介しているところと、善光寺本堂での家元による献茶点前の模様です。



21日は善光寺本堂にて家元宗匠による献茶のご奉仕をいただき、大勸進に場所を移して、拝服・濃茶・薄茶の茶会を開きました。1000人を越える参加会員は一日茶を楽しみました。松本地区は薄茶を担当し、道具は全久院が担当しました。父が乱飾りの相伝を、直接即中齋宗匠より昭和28年に頂戴しており、その折に頂戴した宗匠の自筆「山雲海月情」の掛け軸を飾りました。本当は一番参加したかったのは父かもしれません。もし父が茶道を始めていなければ、私にとって日本文化に触れることもなかったでしょう。外国へ行くと日本のことを聞かれます。日本ってこういう文化と、精神構造を持つ国であることを伝えることができ、それが日本を分かってもらえる一助になり、なおかつ自分に注目してもらえるとという点で私にとってなくてはならないものとなっています。最近は若い人にも日本を表現する方法と評価され始めているようです。もっと優しいことばで、簡潔に茶に触れることができるよう稽古したいと思っています。



### 葬儀は全久院で 検討ください

ここ数年、法事や葬儀は全久院でと繰り返し皆様にお伝えしながら、「リラの会」などシステムとして皆様に使いたくするように勧めてきました。おかげさまで葬儀の3分の1ほどがお寺で行われるまでになってきました。遺体の病院からの引き取り、役所への届出、御通夜、葬儀とすべてこちらが提携する業者に任せることができ、人でもこちらで手配します。

お寺は皆様の寄付により作られ、維持管理させていただいておりますので、使用料は一切いただいておりません。葬儀会館で行う葬儀の半分ほどの費用で行うことができますので、檀家の皆様に経済的な負担をかけずに済みます。また隣組や親戚の手伝いがなくても「リラの会」の皆さんの手を借りることができ、300人分のイスがそろいましたので、足の痛い方にも安心して利用していただけたと思います。

また便利というだけではありません。宗教的な意味を持つ儀式はやはり営利的に運営する場所ではなく、寺という場所で行うから意味があります。便利というだけで宗教儀式を行っても、逆に先祖を敬う心、親や家族を大切に思う心も養われません。ギクシャクしてしまった現在の家族の問題は、もう一回生活様式、文化や伝統、宗教などを原点に戻す作業をしない限り、悪化の一途をたどります。ぜひお寺での法要をもう一度考えてください。

### 俊浩の本山修行

長男俊浩の修行も3年目に入りました。

1月19日より本山の係りが変わり、修行でも一番厳しい侍真寮に配属になりました。侍真寮(じしんりょう)とは朝のお勤めなど本堂での儀式を行うに当たり、お経の本を運び出したり、焼香の台を出したりという法要の裏方をする部署です。たとえば朝のお勤めで、大般若という法要を行いますが、修行僧が読む般若心経の経本を10冊一束になっているのを3束、5キロ相当の重さを、ひじを伸ばしたまま持ち出さなければなりません。体育会のような筋力を要求されます。またお経に合わせて決められた時間で、決められた所へ、決められたとおりの体の動きで、担当の仲間の動きに合わせてしなければなりません。その動きの早さと美しさは一見の価値がありますよ。しかし訓練の厳しさで、体が持たなくなってしまう修行僧も居ます。私たち家族も彼の応援に行ってきました。この写真は朝のお勤めでお経本を配る俊浩の写真です。薄暗い中ですので鮮明な写真ではありませんが彼の緊張した、真剣な気が伝わってくるかと思えます。筋肉のトレーニングと、動きの確認と、お経を覚えること、皆との動きを合わせる練習と、1000畳ある本堂の掃除で一日2時間の睡眠しか取れないとこぼしていました。しかしこんな修行がかれの人格を磨く最高のチャンスと思えます。またかれも気持ちが悪ければ修行を続けることができなくなるのを知っていて、果敢に挑戦しています。修行3年目に入り、お盆など全久院の法要の手伝いには外出許可が出るようになりましたので、お盆には皆様に顔を見てもらうことができます。どんな顔つきになって来るか私も楽しみにしています。



### 大黒コーナー

大黒は現在東京のオペラ研究所に通い週1回ほどの

レッスンを受けています。この研究所は年に2回オペラ公演をしているので松本ではなかなか立てないステージに立つことができます。右の写真はその公演の様です。レッスンの先生はイタリアに長く居て、その指導には定評がある方です。その先生から最近では楽譜を正確に声にしてゆくばかりでなく、聴衆を魅了する技術も習い始めました。最近少しずつ地元でも呼ばれて歌う機会が増えてきました。何回か私もバンドボーイを兼ねて、ステージの影から聞いていますが、以前と彼女の歌が変わってきたのに気付きました。「私の歌を聞いて！歌ってこんなに楽しいのよ！」と体中から気が発散してきます。ここまで来れば本物の域に来ているといっても大げさではなくなったと感じています。



オペラを企画するには、ソリスト、合唱、監督、大道具などの調整や、どんなオペラにするかの打ち合わせ、資金集めなど多くの時間がかかります。今準備を進めていますが、今年は間に合いません。そこで初

めてのリサイタルを開催することになりました。

リサイタルは10月31日(土)13:30より、まつもと市民芸術館大ホールにて行います。ソプラノでは最高音域の「椿姫」のアリアなどを歌い上げます。チラシと一緒に配りますので是非聞きに来てください。

## インフルエンザが流行すると葬儀はどうする？

今年は新型インフルエンザが世界中に流行しました。長野県でも患者が出ましたが、症状が軽いためまだ大げさな対応をせずにすんでいます。しかし毒性が上がった時の対応を考えておかねばなりません。というのも、もし強毒性のインフルエンザにかかった場合は隔離されてしまいます。もしそこで死を迎えることになると、家族には逢えず、火葬にされてしまいます。死に目に会う、見取るなど宗教儀礼をすることができません。隔離されたまま遺族に会うこともなく骨にされ、インフルエンザが蔓延しないように医療的に処理されてゆきます。インフルエンザが沈静化して初めて遺骨が返されることとなります。

人が集まることも規制されますから、枕経、御通夜、火葬、葬儀、四十九日など葬儀の一連の儀式も禁止されます。ですから最悪のケースでは、家族は病院の指示に従い、死に目に会うこともできずに遺骨が変えるのを待ちます。インフルエンザが沈静化して初めて葬儀ができるようになります。沈静化する前はインフルエンザがうつらないように人が集まることはできませんから、ただ沈静化するのを待つだけになります。こんなことにならないように、インフルエンザが流行しないように願うだけです。

## 掲示板

(皆様のご参加お待ちしております)

### ・・・ 檀信徒作業と懇親会 ・・・

例年通り 7月25日(土) 3時より全久院で開催します。3時よりお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。皆様の参加お待ちしております。参加希望の方は電話でご連絡ください。

### ・・・ 座禅会 ・・・

9月12日(土)・9月26日(土)・10月24日(土)・11月21日(土)・12月19日(土)  
お粥と精進料理。以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月19日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、ものの見方や生き方を豊かにすることができます。ぜひご参加ください。

### ・・・ ご詠歌会 ・・・

9月3日(木)・9月10日(木)・10月8日(木)・11月12日(木)・12月10日(木)  
午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。

### ・・・ 観音講 ・・・

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりも良く60代から90代の方が元気に集まってきました。気楽な会ですのでぜひご参加ください。